構築会兵庫支部 平成8年度総会・講演会の概要

平成8年度の総会・講演会は、会員45名の出席のもと、構築会清水正貴会長、土木工学教室森康男教授、建築工学教室吉田勝行教授をご来賓にお迎えして11月に開催しました。講演会では、構築会会員の高野浩二氏（C53）を講師にお招きしました。明石海峡大橋の供用により、まもなく瀬戸大橋に続いて本州と地続きとなる四国に因み、「四国のみち」と題して心の時代に相応しい遍路道にまつわる楽しい話題を提供していただきました。

普段は何気なく歩いている道でも、じっくりと観察してみればそこには色々な発見があります。特に長年の交易路であった瀬戸内を望み、弘法大師ゆかりの“遍路道”という独特の回廊を持つ四国の道には、様々な歴史や文化が埋もれています。また、2つの国立公園と3つの国定公園に代表される豊かな自然環境にも恵まれており、「四国のみち」は地域に散在する様々な歴史・文化・自然を体感することができます。

四国遍路は、四国4県を全周して、弘法大師（空海）ゆかりの88箇所の札所霊場を巡る全長1,400kmに及ぶ壮大な寺院巡拝です。四国霊場を開いたとされる弘法大師の入定以後、その修行の跡を辿って僧侶や山伏による聖地への巡拝が行われるようになりました。江戸時代に入ると海上交通の発達にあわせて遠隔地巡拝が盛んになり、弘法大師信仰の普及とともに四国自体が聖なる地とされるようになり、四国遍路は一般民衆へも広がります。17世紀後半、僧侶によって「四国遍路道指南」が著され、88箇所の札所霊場を巡る遍路が定着していったそうです。

このように、四国遍路は特定の宗派へのこだわりよりも弘法大師信仰の色合いが強く、「同行二人」で遍路をすることは大きな心の支えになりました。地域も、善根宿と呼ばれる無料の宿を提供したり、お接待として食事などを提供したりというように遍路を支えます。こうして、遍路の基となる信仰、その実践の場、それを支える地域の三者一体となったものが四国遍路文化で、僧侶から一般民衆に広がりながら千年の歴史を超えて継承されてきたとの話をお聞きし、感慨もひとしおでした。

まもなく3つのルートで本州とつながる四国は、近代的なインフラによる利便性の向上と、遍路道をはじめ地域の大切な資源である歴史・文化・自然がうまく融合することで、その魅力がさらに高まるものと期待されます。

懇親会では教室からの近況報告の後、四国にまつわる様々な話題で盛り上がり、講師と来賓を囲んで楽しく有意義なひとときを過ごすことができました。